

水先案内

水のこと

もっと知りたい

目次

水と仕事シリーズ「阿賀野川サケ漁」

水道局からのお知らせ

- 効率的な施設運用のために
～浄水施設を再編します～
- おしえて水太郎!!
- 平成18年度 新潟市水道事業決算について
- 水道局へのお問い合わせやお届けは
- 有料広告を募集します!!

水辺の風景「天寿園」

日本海タワーフォトコンテスト



水と共に生きる。
水と仕事シリーズ 第七回 「阿賀野川サケ漁」

曇天模様の中、漁港から船外機船に乗り、阿賀野川河口へ出る。目指すは、昨日仕掛けた定置網の漁場。「ソンマ、服の裾をまくるように、網アあげるんだ」。漁師の笑い声が、揺れる船上で風に消える。オレンジ色の浮きが並んだ漁場へは5分足らず。到着して船のエンジンを止めると、一瞬、川面に静けさが広がった。

すぐに漁師5人で、水中から網をたぐり始める。「引っ張れ、引っ張れ」と、殺気立った大きな声が飛ぶ。網に入ったサケの重さで、少しずつ沈んでいく船のへり。ザバザバと、ひとときわ激しい音がして、網の上にくつもの銀鱗が飛び跳ねた。「ヨシッ」と呼吸を合わせ、船上に撒かれるようにして揚げられたサケたち。魚体に赤黒い縞模様の婚姻色を浮かべ、尾で床を叩く。あはれる、いのち。――気がつくとかモメが数羽、曇り空で高みの見物をしていた。

11月に最盛期を迎える、松浜のサケ漁。北西や西の風が吹けばベストコンディション。そんな日の漁は、150匹は下らないという。

阿賀野川で獲れるサケの塩引きは、地元では秋から正月までのご馳走だ。古からの川の恵みをいつまでも享受できるようにと、松浜漁協では昭和27年から孵化事業に着手している。シーズン中に採卵するのは380万個。うち約300万個が孵化し、1グラムに成長したところでさらに280万匹を選別、阿賀野川へと放流する。成魚になり、母なる川の匂いを求めて帰るのは4年後。放流したサケの2%、約28000匹が遡上する。「漁獲高が例年2500匹から2800匹だからね、人が川からいただいたぶん、お返ししてるんだワ」。

八ツ目ウナギに始まりモクズガニ、マス、シジミ、サケへと続く松浜漁港の一年。人の暮らしに欠かせない、生き物を育む川の環境保全にもまた、漁師の想いはつる。